

宇宙アプリケーションへのROS適用に向けた取り組み RACS2によるcFS-ROS2連携のISS軌道上実証

宇宙航空研究開発機構(JAXA) 研究開発部門

西下敦青,池田勇輝,加藤裕基



自己紹介





西下 敦青(にしした たいせい)

所属: JAXA 研究開発部門 第一研究ユニット

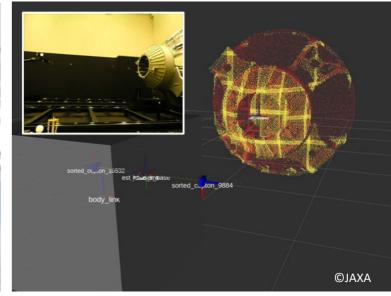
経歴:

2020年にJAXAに入社(6年目).

HTV-X用Flash LIDAR開発, JEM船内カメラロボットInt-Ball2の誘導制御開発, デブリ除去衛星用LiDAR航法アルゴリズム研究などに従事.





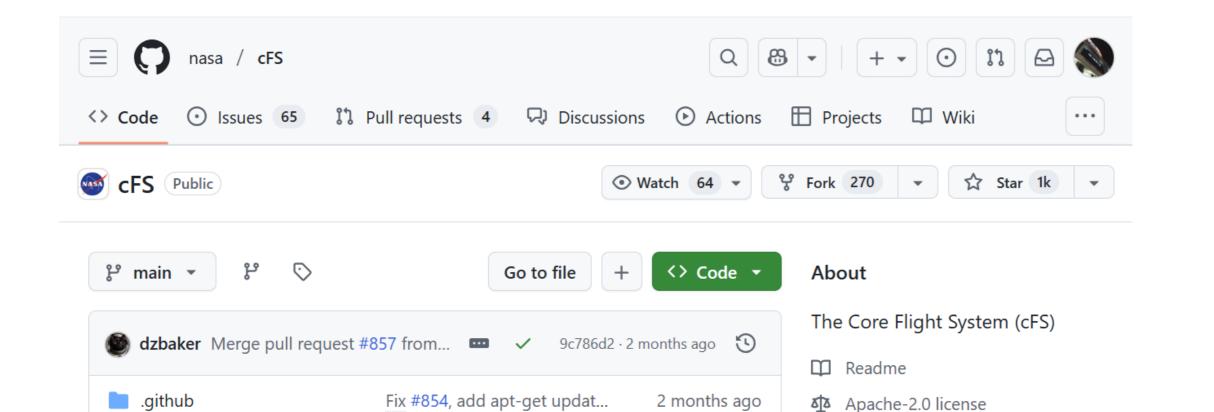


宇宙機のフライトソフトウェアを作りたい皆様



ソフトウェア開発フレームワークが...

オープンソースで提供されているって知っていましたか?



cFS (Core Flight System)って??

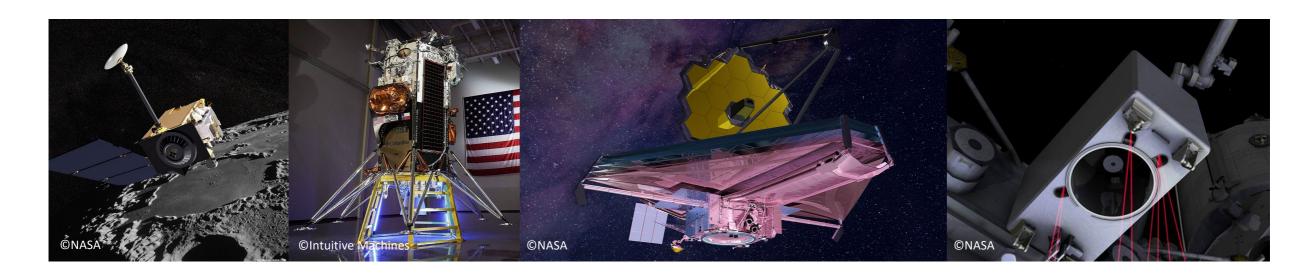


NASAで開発された、宇宙機フライトソフトウェア用のオープンソース基盤フレームワーク

主な特徴

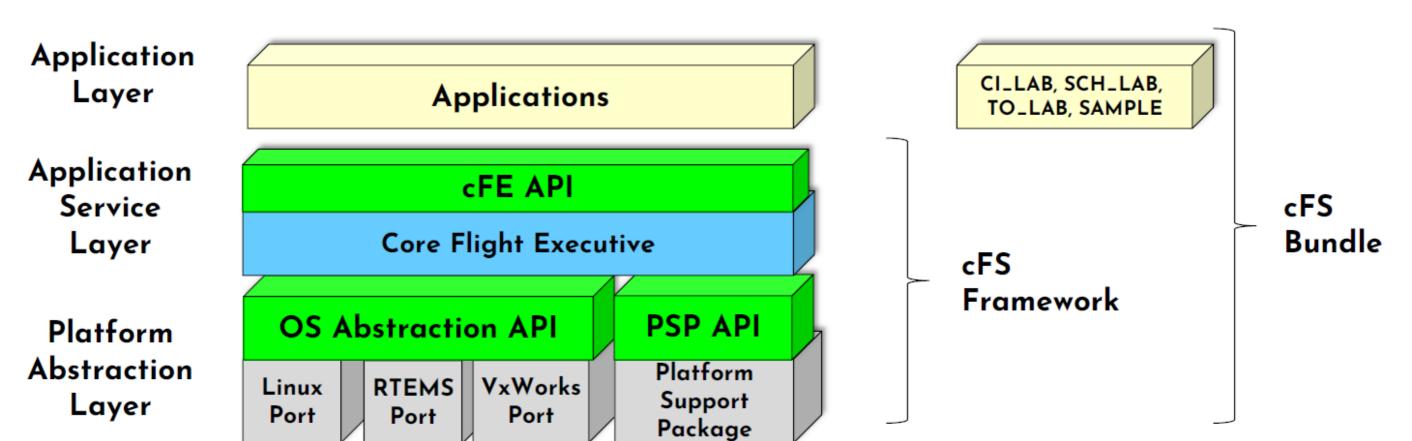
- ① 過去に開発されたソフトウェア資源を利活用(再利用性)
- ② 多数のミッションで実績を積んだバグの少ないシステム(信頼性)
- ③ OSやハードに依存しない設計 (**移植性**)





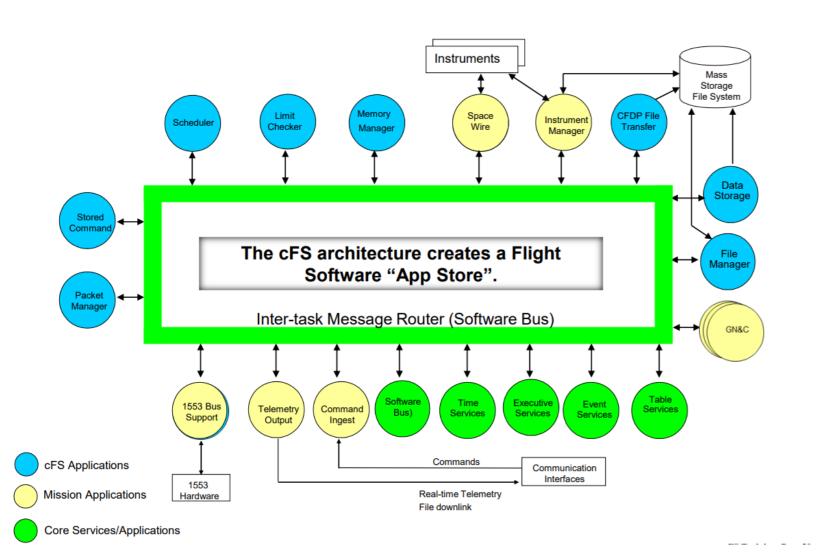
cFS Architecture (1)





cFS Architecture (2)





- Software busを介して各アプリが相互 通信する仕組み
- Pub/Sub型の通信モデル
- ランタイムに実行するコンポーネント を切り替えられる
- イベントやログの管理,可視化ツールが整備されている,シミュレータ連携,etc…



ROSと多くの共通点がある!

https://etd.gsfc.nasa.gov/capabilities/capabilities-listing/cfs/

より高度で複雑な宇宙ロボットシステムを作る







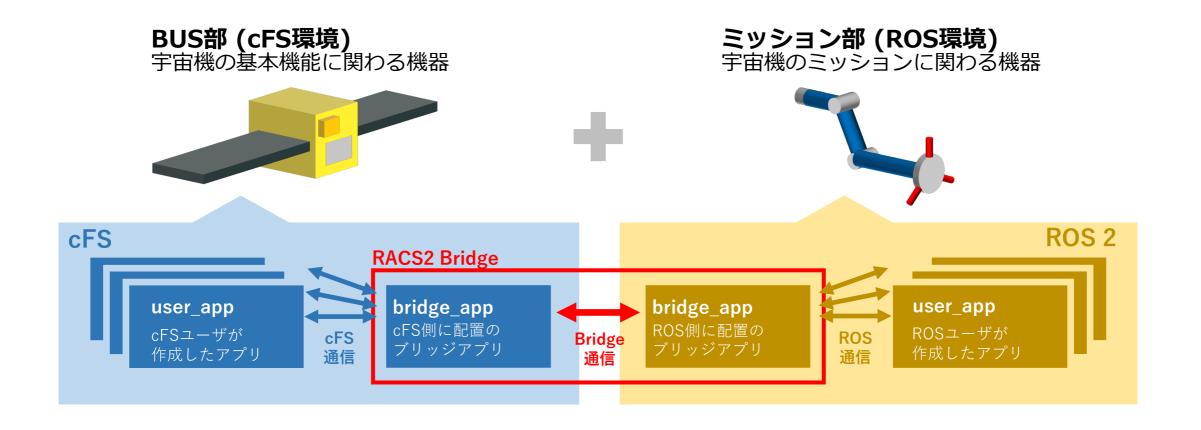
幅広いアプリケーションに適用可能な柔軟な設計	宇宙機フライトソフトウェア開発に特化
地上品で多数の導入実績あり	宇宙用組み込みCPUでFlight proven
Space gradeの検証が難しい (安全規格対応は各プロジェクト側の責務)	NASA規格 (NPR 7150.2など)準拠検証ツールあり
非常に豊富なソフトウェア資源	宇宙分野では豊富と言えるがROSと比較してしま うと…

ROSとcFSを掛け合わせることで、より高度で複雑な宇宙ロボットシステムが開発できるのでは?

RACS2 - cFSとROS2の相互連携



- ミッションクリティカルな機能 → Flight provenな**cFS**で実装
- 非クリティカルかつ複雑な処理 → 豊富なソフトウェア資源を活用して**ROS**で実装



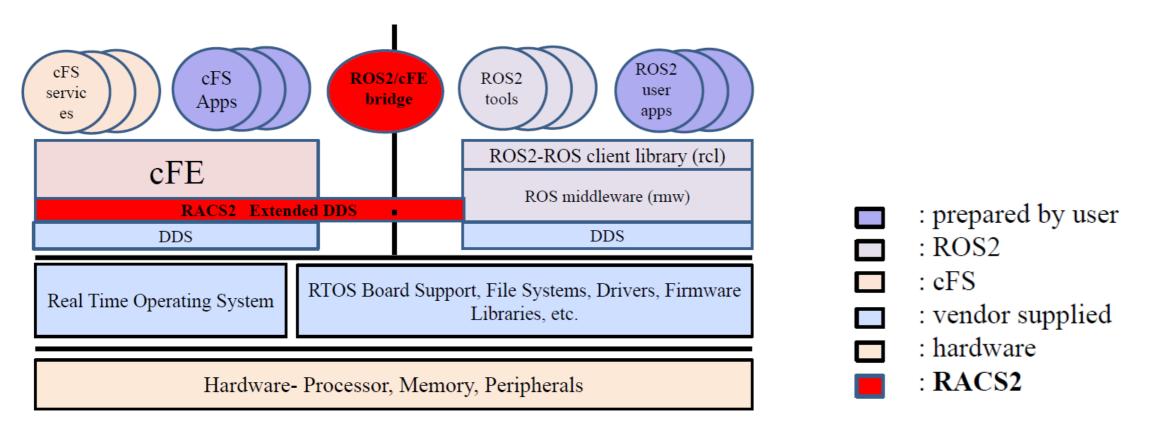
RACS2の仕組み



■ 2種類のブリッジ機能

cFSのソフトウェアバスとROS2のメッセージを橋渡しする(アプリケーション層) ROS2/cFE bridge:

DDS(Data Distribution Service)で相互通信する(ミドルウェア層) extended DDS:





RACS2の宇宙技術実証



RACS2が今後活用されていくには、運用実績を積み重ねていくことが不可欠いずれは大規模な宇宙システムにRACS2を導入できるよう、段階的に技術実証を進めていく計画

ステージ1

ISS軌道上での概念実証

- Int-Ball2を活用した軌道上実証
- RACS2を介してROS2とcFSが 相互通信できることを検証



ステージ2

実応用を想定した機能実証

- 宇宙システムを想定した HW/SWコンフィグでの軌道上 実証
- cFSとROSを別々の宇宙用OBC に搭載

ステージ3

実ミッションへの適用

• 宇宙ロボティクスミッションに RACS2を適用

自律飛行型カメラロボット「Int-Ball2」

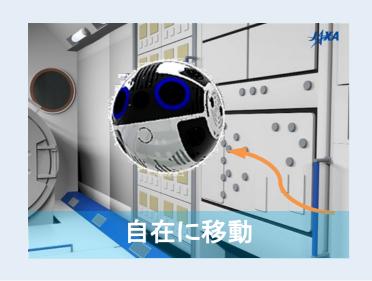




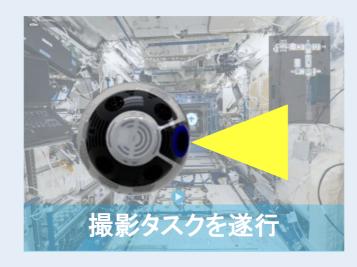
The JEM Internal Ball Camera 2 (Int-Ball2)

- 自律飛行が可能なカメラドローン
- 地上からのコマンド操作によって撮影が可能

クルーの手を介さずに撮影タスクを遂行することができる JEM船内で現在活躍中!











大西宇宙飛行士のX(旧Twitter)投稿





大西卓哉 (JAXA宇宙飛行士)Takuya Onishi

@Astro_Onishi

ドラゴン補給船の積み込み作業は、約半分を過ぎました。予定より早いペースで順調に進んでいます。

その合間に久しぶりにInt-Ball2の飛行訓練をサポート。安定したフライトで一度も姿勢制御喪失しませんでした。

今日は、最後にドッキングステーションに自分でドッキングした時の様子 をお届けします**!!**

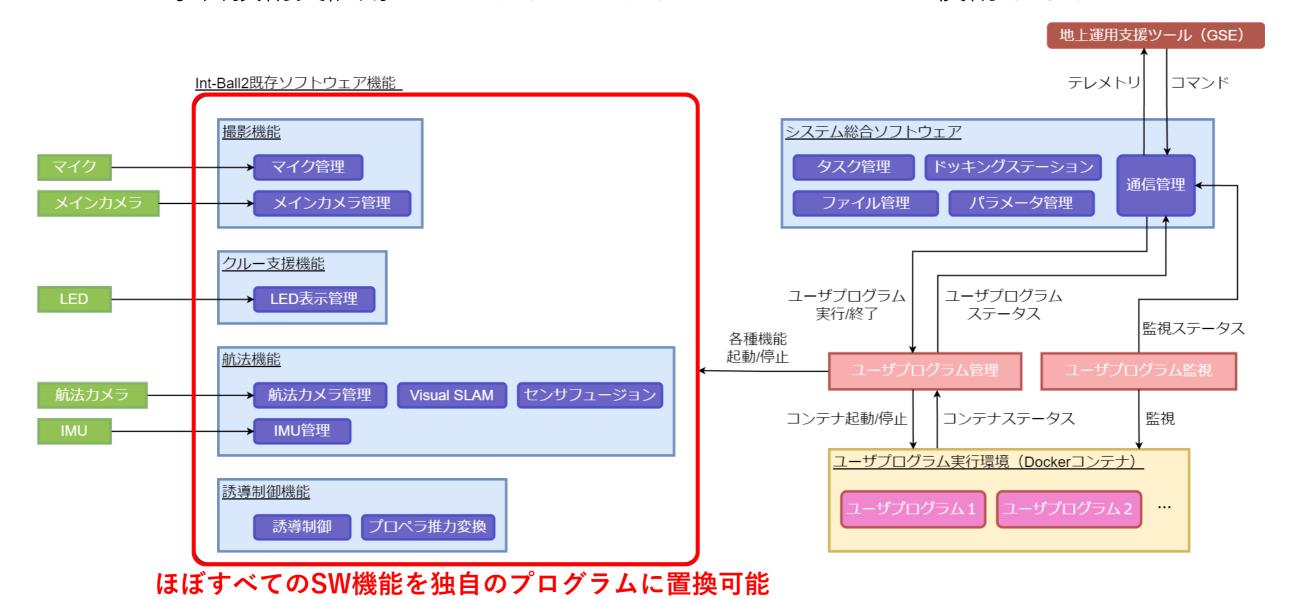
https://x.com/Astro Onishi/status/1922776713542381715



Int-Ball2のユーザプログラミング機能



Int-Ball2は宇宙技術実証用のロボットプラットフォームとしての役割もある

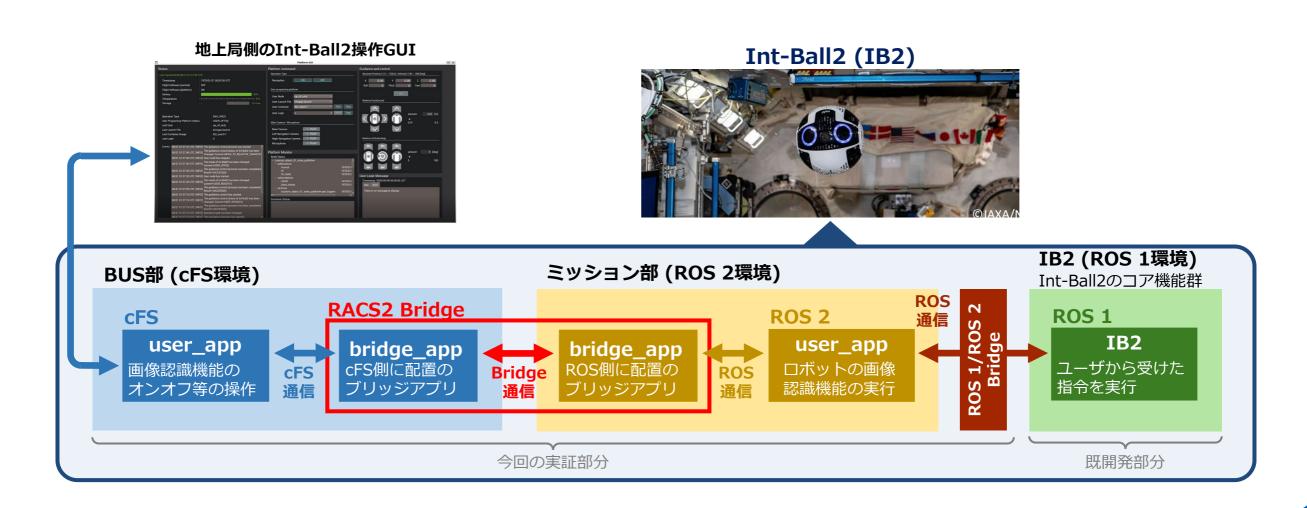


軌道上実証時のソフトウェア構成



Int-Ball2は組み込みコンピュータ (Ubuntu OS) 1台しか搭載していない

→ 機能用途に応じた「cFSとROSの使い分け」は将来検討とし、今回はRACS2の概念実証を目的とした



ハードウェア制約がある中での実装



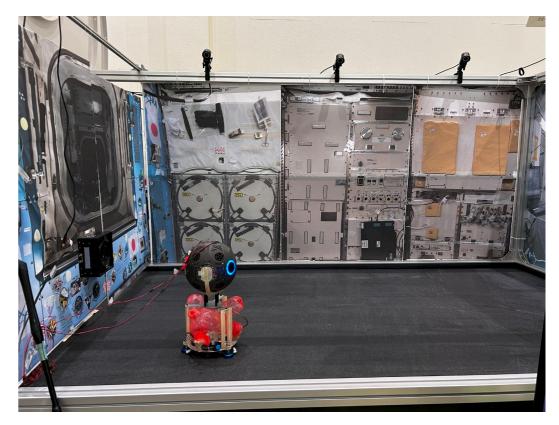
地上で動作検証を進めるなかで、処理負荷の観点で幾つかの課題があった

1. 画像処理が重い(アプリ側の課題)

Int-Ball2がGPU並列処理に非対応の環境 使用した画像認識モデルが十分に軽量ではない

- 2. カメラ映像のPublish周期が遅い(ロボット固有の課題)
- 3. RACS2が重い(ブリッジ側の課題)

- 1,2 はプラットフォーム側でオフノミナルな挙動を想定 して対処できる仕組みが必要
- 3 はプラットフォーム自体の問題であり、本来発生してはならず、根本的に解決すべき!

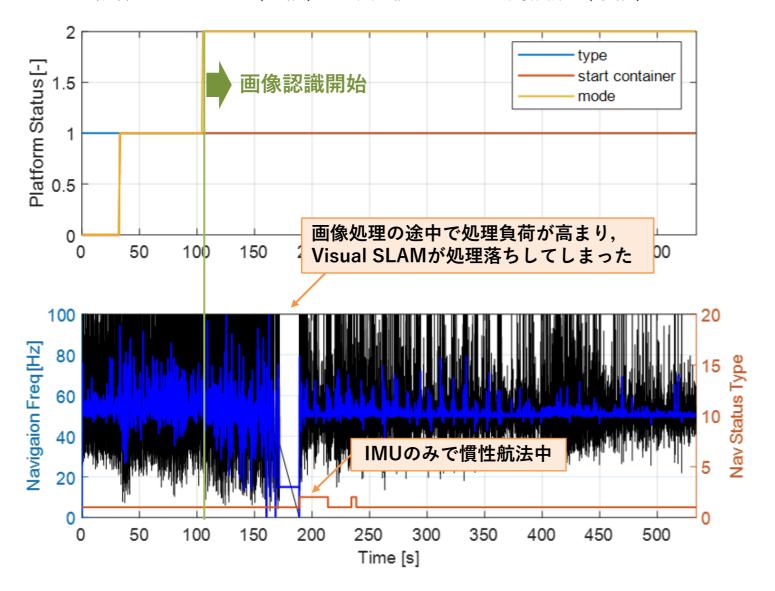


Int-Ball2地上モデルと空気浮上盤を使った機能確認試験

ハードウェア制約がある中での実装



機体ステータス(上段)と航法値のPublish周波数(下段)



```
# Platform Status
コンテナ 停止 = 0
コンテナ 起動(アプリは停止) = 1
画像認識アプリ 開始 = 2

# Nav. Status Type
Visual SLAM 正常起動 = 1
Visual SLAM 停止 = 2
```

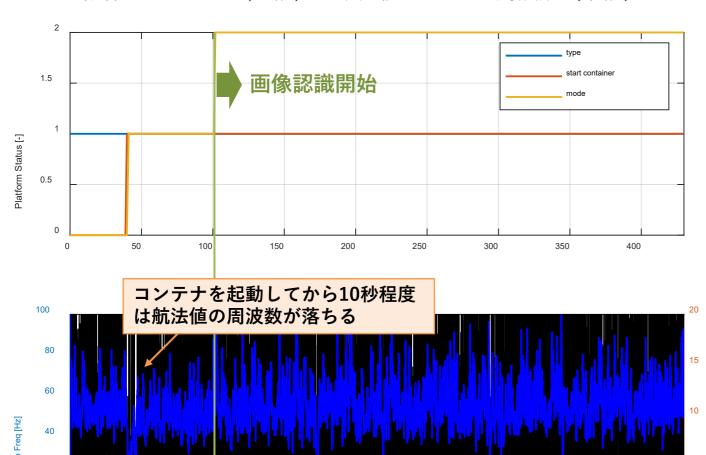
- 航法値のPublish周波数が極端に低下する
- 誘導制御系が固まる (プロペラファンの駆動信号が一定値で固定)

といった飛行性能への悪影響がでていた

ハードウェア制約がある中での実装



機体ステータス(上段)と航法値のPublish周波数(下段)



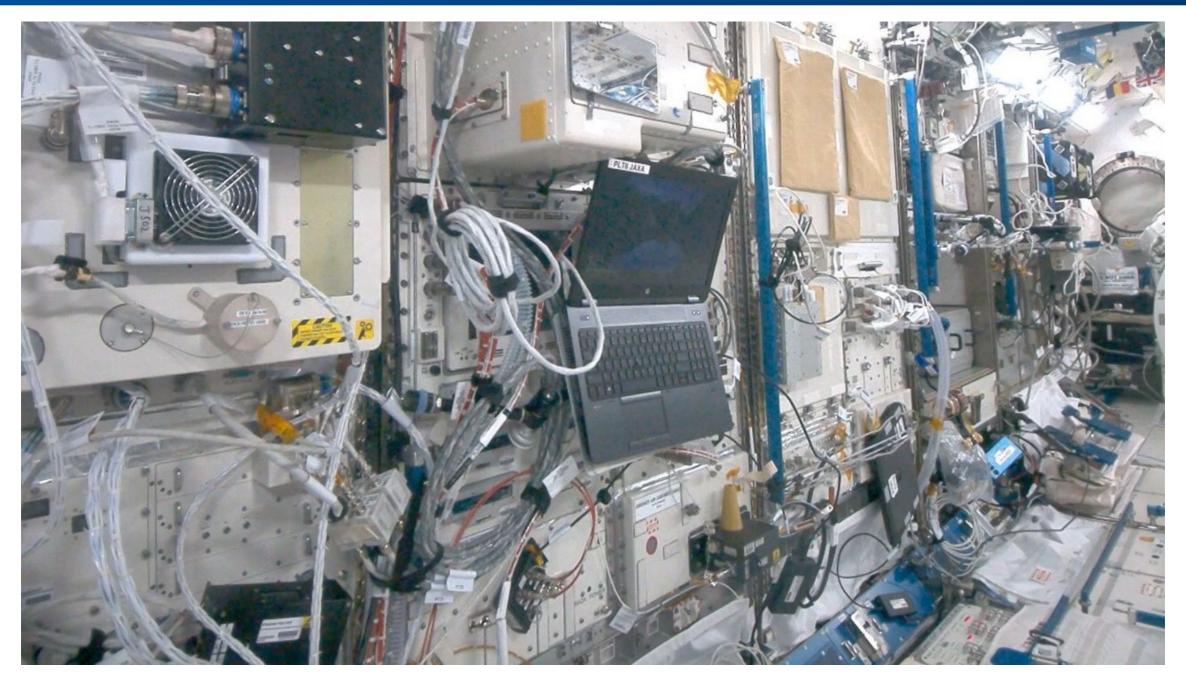
RACS2の実装を修正して処理負荷低減を行った結果, 飛行中に航法誘導制御系が固まる事象は発生しなく なった

- 一方でDockerコンテナ起動時に航法値のPublish 周波数が減少した
- ➡RACS2を活用してROSとcFSで機能分担させればこのような事象は発生しなくなる

VSLAMの処理落ちは一度も 発生しなかった

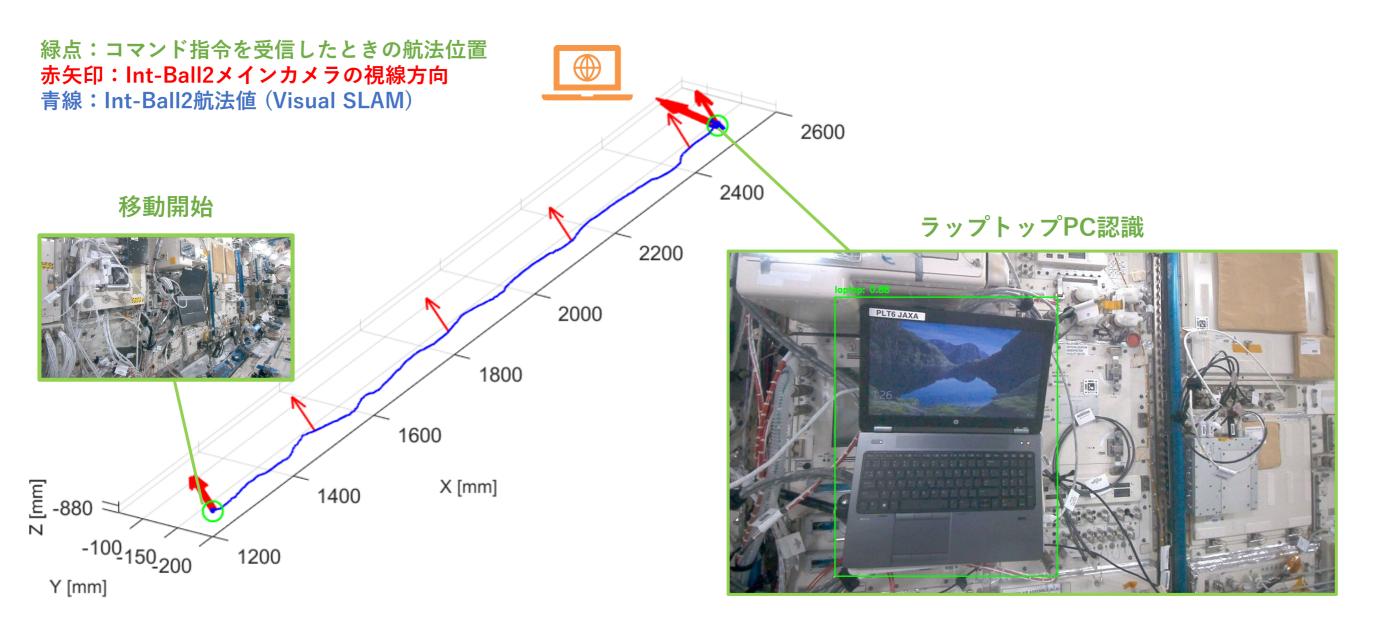
軌道上実証結果1:船内ラップトップPC撮影タスク





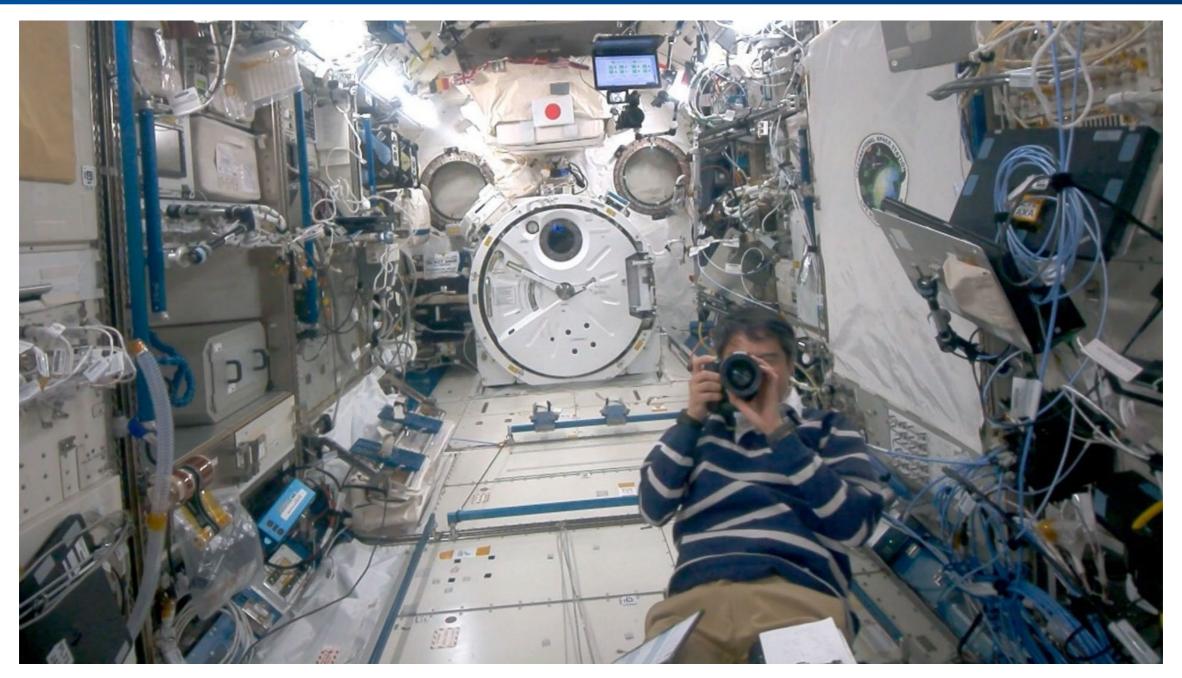
軌道上実証結果1:船内ラップトップPC撮影タスク





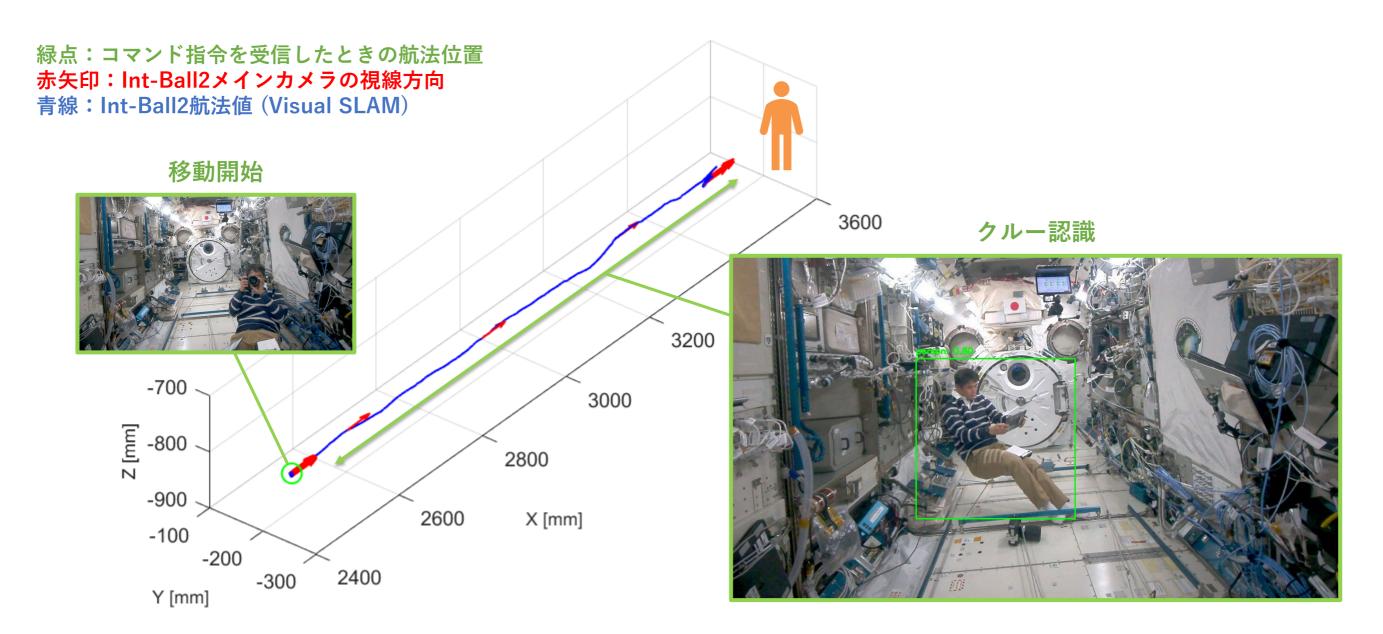
軌道上実証結果2:大西宇宙飛行士撮影タスク





軌道上実証結果2:大西宇宙飛行士撮影タスク





軌道上実証を通じて考えるRACS2の今後の発展性



RACS2は単に通信をブリッジするのでなくROSとcFSの間の様々なギャップを解決しなければならない

安全・信頼性

cFSはFlight provenであったとして、ROSとRACS2の宇宙機向けの認証・実績をどう評価するか?

- ➡ちゃんとクリティカルでない部分にROSが使われていて、それがクリティカルな機能に波及しないことをインターフェースであるRACS2側で保証しないといけないのでは?
- ⇒宇宙機用ソフトウェアの開発規格(NPR 7150.2など)にROS部分をどう適合させるか(どうテーラリングさせるのか)

<u>インターフェース (I/F) 標準化</u>

要件が異なるので、ROS側とcFS側で違う宇宙用OBCを用いることが想定される

- ➡通信I/F, ハードウェアI/Fの標準化をブリッジ(RACS2)側で進められるか
- →例えばセンサがROS側とcFS側で別々にあるケース等で、データの時系列整合性をどう確保するか

<u>フォールトトレランス</u>

ROS実装側のOBCが誤動作した場合など,オフノミナル挙動に対するRACS2側での処理について検討しておく必要がある

➡障害検出・アイソレーション・復帰動作(FDIR)をどうブリッジ層で担保するか。

まとめ



cFSとROSを繋ぐブリッジソフトウェア「RACS2」

ROSとcFSを掛け合わせることで、信頼性を維持しつつもより高度で複雑な宇宙ロボットシステムの実現を目指す

RACS2の宇宙技術実証

- RACS2を活用してもらうには運用実績を積み重ねてい くことが重要
- 今回の軌道上実証はRACS2の概念実証(PoF)という 位置づけ、実利用を見据えて今後も段階的に実証を進 めていく計画

RACS2の今後の発展

単なる相互通信機能としての役割だけでなく, ROSとcFS の間の様々なギャップを解決していく



宇宙開発に興味があるROSユーザの皆さん,ぜひ色々意見交換しましょう!

Space ROS Club

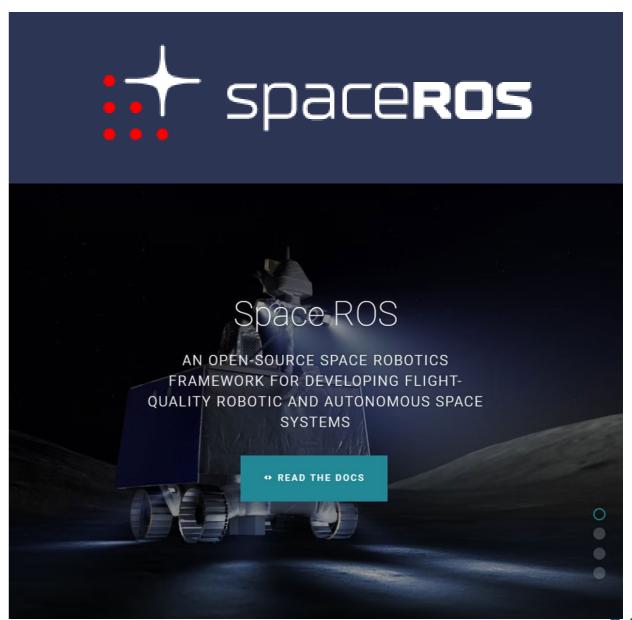


Space ROS Clubは宇宙機・宇宙ロボット向けのROS であるSpace ROSに関する勉強会、開発などの活動を行うコミュニティです

毎週Discordで勉強会を実施していますので,ご興味ある方はぜひ!!



https://discord.gg/cGXxdcxMWN



APPENDIX

軌道上実証:飛行シナリオ





① ラップトップPC と②宇宙飛行士 (クルー) を 飛行中に検知する

Int-Ball2地上操作用GUI





- 1. ユーザプログラム実行用 Launchファイルを作成
- ユーザプログラム実行環境 (Docker Image) を作成
- 3. ユーザロジックでタスクを 切り変える管理プログラム を作成

ISSで技術実証する意義



ISSネットワークを介した大容量データ授受

- ✓ 状況をリアルタイムに確認できる
- ✓ 生のフライトデータを地上に降ろせる



©JAXA

宇宙飛行士による試験支援

- ✓ ロボット単体では難しい試験も実施できる
- ✓ 様子を逐次報告してもらえる



©JAXA/NASA

cFSの導入実績



Project/Program	Operating System	Hardware(If Identified)	Launch
Lunar Reconnaissance Orbiter (LRO)	(If Reported) VxWorks	RAD750 (PowerPC 750 family)	(If Known) 200
	VxWorks VxWorks	, , , , , , , , , , , , , , , , , , , ,	200
Morpheus		AiTech S950 (PPC750FX PowerPC 750 family)	
Radiation Belt Storm Probes (RBSP) / Van Allen Probes	VxWorks	RAD750 (PowerPC 750 family)	201
Lunar Atmosphere and Dust Environment Explorer (LADEE)	VxWorks	Unk	201
Global Precipitation Measurement (GPM) mission	VxWorks	RAD750 (PowerPC 750 family)	201
Observatory for Planetary Investigations from the Stratosphere (OPIS)	Xenomai Linux	Intel Duo	201
Magnetospheric Multiscale Mission (MMS)	RTEMS	Rad Hard Coldfire (5208)	201
Dellingr	FreeRTOS	Gomspace Nanomind A712d ARM7 RISC processo	201
Neutron star Interior Composition Explorer (NICER)	VXWorks	BRE440 PowerPC	201
Simulation-to-Flight 1 (STF-1)	FreeRTOS	Gomspace Nanomind A3200 AVR3200 MCU	201
Compact Radiation Belt Explorer	Linux	XB1 Bus with Cubesat/Chrec Space Processor Inst	201
Parker Solar Probe (PSP)	RTEMS	LEON3 UT699	201
Global Ecosystem Dynamics Investigation (at ISS) (GEDI)	VxWorks	PowerPC 440	201
Seeker ISS Flight Experiment	Linux	CHREC space processor	201
Coordinated Applied Capitol Technology University Satellite (CACTUS-	Unk	Unk	201
1)			
Kenobi ISS Flight Experiment	Unk	Unk	201
Orion Ascent Abort 2 (AA-2)	VxWorks	AiTech SP0 1 GHz SBC PowerQUICC III processor	201
Space Test Program - Houston 6, USAF-NASA Goddard	Unk	Unk	201
Int-Ball2 at ISS JEM	Linux	JETSON TX2 NVDIDIA Pascal	202
Orion Camera Controller Artemis I (EM-1)	Linux	Intel i5 CPU (NUC)	202
LunariceCube	Linux	P400	202
MX-1, MX-2, MX-5, MX-9 (CLPS) Moon Express	Unk	Unk	202
Peregrine Lander - Commercial Lunar Payload Services (CLPS)	Unk	Unk	202
Astrobatic Technology			
BioSentinel	VxWorks	UT700 LEON 3FT	202
Orion Vision Processing Unit Artemis I (EM-1)	VxWorks	UT700 LEON 3FT	202
SkyFire	Unk	Unk	202
XL-1 Lander (CLPS) Masten Space Systems, Inc.	Unk	Unk	202
Orion Camera Controller Artemis II (EIV-2)	Linux	Intel i5 CPU (NUC)	202
Plankton, Aerosol, Cloud, ocean, Ecosystem (PACE)	VxWorks	MUSTANG (custom LEON3 Dual core + LEON3-FT i	202
Orion Vision Processing Unit Artemis II (EIVI-2)	VxWorks	UT700 LEON 3FT	202
Lunar Gateway - Minimal Habitation Module (formerly Utilization Module)	VxWorks	Unk	202
Exploration Extra-vehicular Mobility Unit (xEMU) Caution & Warning System (CWS)	VxWorks	Leon3 SPARC processor	202
Roman Space Telescope (RST) (previously Wide-Field Infrared Survey	DTEMS	Custom LEON4	202
Telescope - WFIRST)	KILIND	COSTONICEONS	202
Mars Ascent Vehicle (preliminary)	Not App.	Sphinx	
Ames Modular Common Spacecraft Bus	VxWorks	RAD750 processor, 1GB TMR NVRAM	
Avionics & Software Platform for Exploration Capabilities & Technologies (ASPECT)	VxWorks	SP0 processor PowerQUICC III processor	
Certification of cFE on VxWorks ARINC-653	VxWorks ARINC 653	SP0 processor PowerQUICC III processor	

John W Bradbury, "Open Source Core Flight System (cFS) Flight Software (FSW) Verification & Validation (V&V) Final Summary", IV&V Analysis Technical Report, NASA/CR-20205010026

https://ntrs.nasa.gov/api/citations/20205010026/downloads/CR%2020205010 026%20Core%20Flight%20System%20(cFS)%20Flight%20Software%20(FSW)%2 0Final%20Report-1.pdf

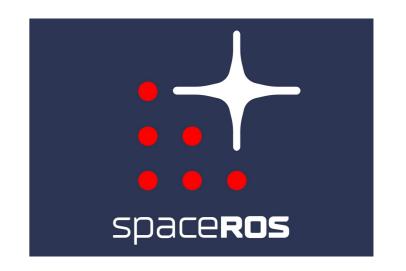
SpaceROS ~ RACS2との関係性~



■ Space ROS

- ROS2をベースに宇宙ロボティクス用途に拡張したプラットフォーム (Open Robotics, NASA, PickNik社が開発を主導)
- コード解析ツール,要求トレーサビリティ管理ツール,その他宇宙固有のツール群を使った開発ができるようになっている

「ROSを拡張して宇宙ロボット用にする 」というモチベーション



■ RACS2

• ROS2とcFSの間のデータ授受を行うブリッジ機能を提供

「ROSを宇宙用プラットフォームと繋げる」というモチベーション

宇宙ロボット開発にROSを活用する点では共通しているが、異なるアプローチをとっている